

1 目的

- ザクザク路面の軽減など「シーズンを通した冬季道路環境の確保」や「除排雪作業の効率化」を検証

2 試験施工のポイント (東区では実施いたしません)

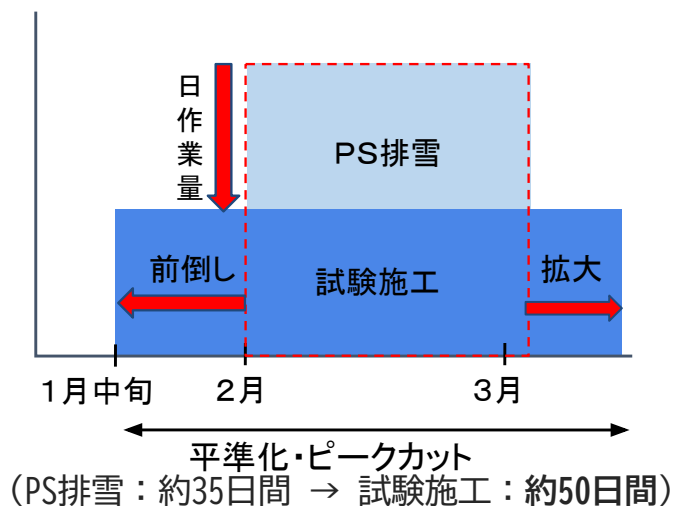
(1) シーズンを通した冬季道路環境の確保 (排雪量)

- 排雪作業の開始時期を1月中旬頃に前倒し※

作業期間を拡大することで、作業の平準化やピークカットを図る

※排雪作業を前倒した地域では、降雪や道路状況等に応じて2回目の作業実施も想定

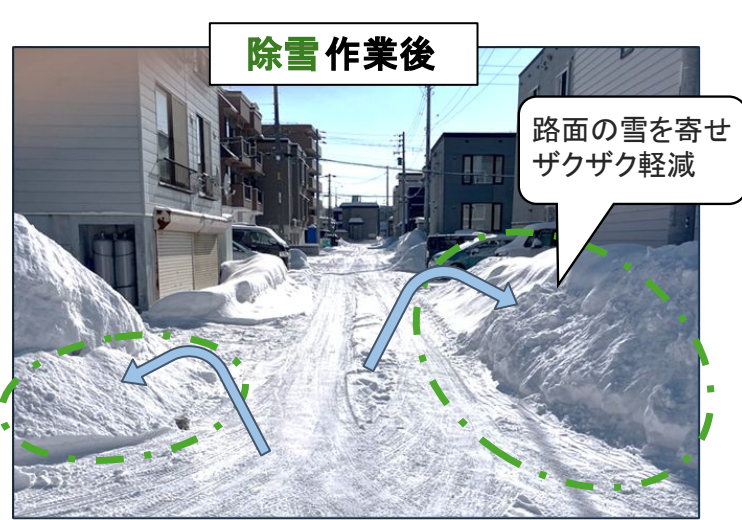
- 排雪作業により、除雪作業時の雪置き場を確保し、路面整正と組み合わせることで、その後のザクザク路面を軽減



(2) 除排雪作業の効率化

- 町内会などの申請団体毎ではなく、道路毎に降雪や道路状況などに応じて、作業箇所を臨機に変更して作業を実施

【作業イメージ】



※作業の目安 排雪幅：道路幅の6～7割程度、路面の圧雪厚さ：10cm程度

3 今後の検討スケジュール

■令和8年度

パートナーシップ排雪制度を継続しながら、生活道路除排雪の在り方の方向性を整理

■令和9年度以降

検討の方向性や地域や除雪事業者の準備・調整状況等 整理した方向性を踏まえて、生活道路の除排雪手法を決定

4 除排雪手法小委員会

(第1回:令和7年8月7日開催、第2回:令和7年12月3日開催)

● 生活道路の試験施工に関する議論

厚別区・清田区で行われる試験施工(パートナーシップ排雪に代わる公共排雪)について、委員から以下の意見や提案が出されました。

- 試験施工における手法は、気候変動に伴うザクザク路面の発生や3月以降の排雪作業の取りやめなどパートナーシップ排雪制度の弱点を改善できる可能性がある
- 山坂が多い地域やパートナーシップ排雪の申込が少ない地域などの条件の違い、除雪事業者の体制が地域ごとに異なることを踏まえると、作業手法の可否については様々な条件での試験施工を通じて確認する必要がある部分も多く、引き続き詳細な検証が必要である
- 試験施工の内容については、市民が現行手法との違いを理解し、具体的な変更内容をイメージできるよう、分かりやすい説明を行うとともに、市民全体に対する情報発信を行うことが重要である
- 仮に、残り3割も含めた全線の排雪作業を市が行うとなると、地域負担額の10億がなくなるので、現行の市負担額の35億ではなく、もっと予算がかかるものとする
- パートナーシップ排雪制度を廃止した場合には、町内会活動の縮小につながる可能性もあることから、これに対する対応策も考えていく必要がある


令和7年度 試験施工の対象地域

生活道路と幹線道路の除排雪作業を連携。**厚別区・清田区の全域で実施**します。



【施工延長】

厚別区  約240km

清田区  約330km

(参考:東区生活道路延長 約450km)

札幌市建設局雪
対策室計画課
除排雪手法小委員
会のページ



<https://www.city.sapporo.jp/ki-kaku/miraisou-sei/johaisetsu-syoiinkai.html>